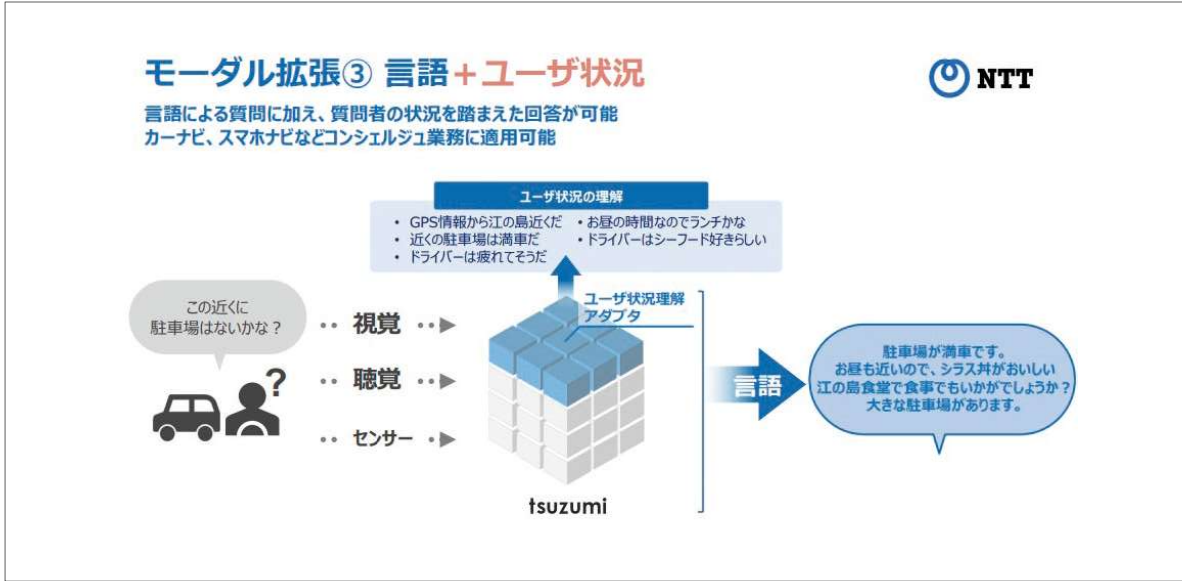


図表5-3-6 ▶マルチモーダル例 (+ユーザーの状況)



出所：NTT「NTT 独自の大規模言語モデル『tsuzumi』を用いた商用サービスを2024年3月提供開始」(2023年11月1日) 記者説明会資料「NTT版LLM『tsuzumi』の概要」

シヨン資料から、重要な情報を抜き出してまとめることもできる。

また、センサー類から得られる情報も加味すれば、そのときの利用者の居場所や、疲労度、日頃の生活パターンなども考慮したうえで、情報提供を行うことができるようになる(図表5-3-6)。

いわば、言語を扱うLLMに、人間のような「視覚」や「聴覚」の機能を具備し、相手がおかれている状態も踏まえたうえで、より状況に即した対応を可能なAIを実現することができるのである。NTTは、言語のみならず、画像や映像も含めたさまざまな情報処理技術に関する研究を積み重ねてきた実績があり、マルチモーダル対応においても強みを発揮できる体制を有しているといえることができるだろう。

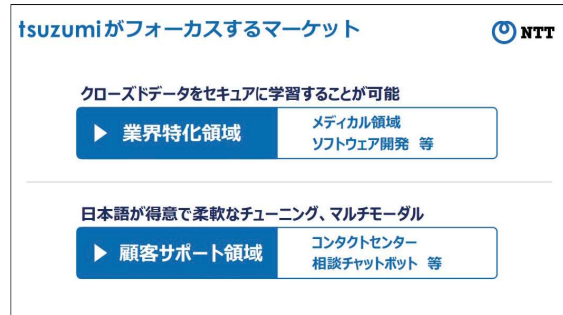
(2) tsuzumiのユースケース

tsuzumiがフォーカスするマーケットは大きく2つある(図表5-3-7)。1つ目は軽量でありオンプレミスでの処理が可能であるという特徴を活かして、高い情報セキュリティが求められる業界向けにソリューションを提供すること。もう一つは日本語が得意・柔軟にチューニングできる・マルチモーダル対応可能などの特徴を活かして、顧客サポート分野で利用してもらおうというものだ。以下にそれぞれの代表的なユースケースを紹介する。

①電子カルテの構造化 (図表5-3-8)

6 一定の形式や規則に従っていないデータのこと。

図表5-3-7 ▶tsuzumiのフォーカス



出所：NTT「NTT 独自の大規模言語モデル『tsuzumi』を用いた商用サービスを2024年3月提供開始」(2023年11月1日) 記者説明会資料「NTT版LLM『tsuzumi』を自然言語処理研究開始から40年、満を持してデビュー！」

医療機関への電子カルテの導入は進んでいる。令和2年度の厚生省データによれば、大規模施設では9割以上、中小規模施設でも5割以上が電子カルテを導入済みであるという。しかしながらカルテは通常、自由記入形式になっており、同じような意味でもさまざまな表現が混在している。こうした非構造データ⁶はそのままでは分析しづらく、定量的に整理し、「構造化されたカルテ」に置き換えないと活用が難しい。

カルテの構造化は専門知識が必要なうえ手間がかかる作業である。従来はその作業を医師自身、あるいは、アプリストラクタと呼ばれる専門職員が、人力で一件一件行っていたが、tsuzumiを活用することでその部分を自動化できる。構造化作業を自動化できれば、多くの医療機関で未活